医療法人財団はまゆう会王子病院

箄島明彦、瀬川賀世子、田中孝夫、市丸喜一郎

産業医科大学腎センター

田村雅仁

【演題】急速進行性糸球体腎炎で発症し、安定した透析経過を辿っている P-ANCA 及び抗 GBM 抗体両陽性の高齢透析の一症例

【症例】84 歳、女性。高血圧にて外来加療されるも平成 20 年 11 月には腎機能、検尿とも異常認めず。12 月より倦怠感、微熱、下痢症状出現し近医受診。腎不全及び高度の貧血を認め、急性腎不全の診断にて当院紹介入院。P-ANCA 陽性にて急速進行性糸球体腎炎と診断し、精査加療目的にて産業医大腎臓内科に平成 21 年 1 月 14 日に転院。腎生検にて半月体形成性腎炎と診断。また、抗 GBM 抗体も高値を呈し、ANCA 陽性の抗 GBM 抗体腎炎と診断し、ステロイド静注パルス、血漿交換療法施行されるも腎機能の改善なく血液透析導入し、2 月 23 日に当院転院。現在、維持透析施行中であるが P-ANCA 並びに抗 GBM 抗体とも陰性化し、全身状態は比較的良好である。

【考察】高齢発症の ANCA 関連腎炎は腎生存率のみならず生命予後が不良であると報告されている。本例では透析導入に至ったものの比較的良好な経過を辿っており、ステロイドパルスのみならず血漿交換などの初期の積極的治療が有効であった可能性が示唆される。